

商店街の魅力向上 ～黒門市場商店街振興組合～

理事長 山本 善規 氏
副理事長 吉田 清純 氏
事務長 國本 晃生 氏

大阪府中央区の南に位置する市場型商店街。明治時代から続いてきた商店街が、外国人観光客という新しい顧客を取り込むべく様々なチャレンジをしています。

歴史ある商店街に訪れた新しい商機

黒門市場商店街は、これまで、「ミナミの台所」「食の市場」として、料亭などのプロの料理人や地元住民の皆様を主なお客様としてきました。

8年ほど前から、大阪に爆買い目的の外国人観光客が訪れるようになりました。偶然、商店街の近くに観光バスの駐車場があるのを知り、バスへの乗り降りの際に目に留まるように、商店街の入り口に中国語で「歓迎」と書かれた横断幕を掲げてみました。すると、母国語で書かれた「歓迎」に感激した観光客が、一人、また一人と流れてくるようになりました。彼等は、新鮮な魚を持ち帰れないので「この場で食べたい」と言いました。そこで、刺身を一人前ずつ小分けにし、店横にイートインスペースを設けました。すると、SNSでまたたく間に「黒門市場で新鮮な魚が食べられる。」との噂が広まり、商店街を訪れる観光客がどんどん増えていきました。ほんのちょっとしたきっかけづくりと、お客様のニーズに柔軟に応えたことが、商店街にこんなに多くの新しいお客様を呼びこむことになるとは、このときは思いもよませんでした。



商店街で受入体制を整備

ものすごい勢いで増える外国人観光客に驚いた私達は、まずとにかく、休憩所とトイレが必要だと考えました。休憩所とトイレは、以前からお客アンケート調査で要望のあったことでした。空き店舗だった所を休憩所に整備し、トイレ、外貨両替所も設置しました。また、商店街事務所の1階部分も公衆トイレに改装しました。



さらに、街区の中に提灯を吊るして、写真スポットも作りました。すると、観光客はさらに増え続けました。現在、1日の来街者数は8年前の2.5倍になり、市内の大型テーマパークを抜いた、といわれています。同時にマス・メディアの取材も増えています。現在では、国内だけでなく、韓国やタイなど海外のメディアからも取材の御依頼をいただくようになりました。

また、日々増え続ける外国人観光客となんとかコミュニケーションを取りたい、と思い、週1回店主が集まって英会話を勉強しています。店頭に表示するプライスカードの多言語表記の仕方も教わっています。

地元のお客様・日本のお客様も大切に

近隣の商店街と合同でイベントを行っています。昔ながらの売り出しは、地元の皆様に好評です。

また、日本人観光客の皆様を対象とした、「黒門市場ツアー」(事前予約制)を開催しています。商店街理事長が、商店街の中をご案内し、歴史についてもお話しています。こちらは大変好評をいただいています。



写真左から、國本氏、山本氏、吉田氏

がんばる商店街の皆様へ メッセージ

ご自身の商店街のウリを大きく打ち出してみましょう。ウリがなければ作ってしまいましょう。